

ASEAN 経済共同体 (AEC) の現状及び各経済回廊における課題に関する研究

1223016 城戸 翔 (指導教員: 黒川久幸)

1. 序論

ASEAN 経済共同 (AEC) が 2015 年 12 月 31 日に発足した。本共同体は ASEAN 加盟 10 ヶ国が一体的な成長を続けることを目的として 2003 年の会合で第二 ASEAN 協和宣言の採択によりその発足が決定された。

ASEAN は東アジアと欧州を結ぶ海上航路 (シーレーン) が通過する要衝があるだけでなく、多くの日系企業が進出しており、生産基地や販売拠点として、また資源の調達先といった様々な側面で日本にとって重要なパートナーである。

そこで本研究では、日本にとって重要な ASEAN の現状を把握するために、2008 年から 2015 年までの工程表である、AEC ブループリントの内容から AEC の現状を整理し、経済回廊ごとに課題をまとめることを目的とする。

2. 研究対象とする国と経済回廊

ASEAN 加盟 10 ヶ国 (シンガポール、マレーシア、フィリピン、ブルネイ、インドネシア、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム) を主な対象とするほか、南北経済回廊、東西経済回廊、そして南部経済回廊を対象とする。

3. AEC の現状及び課題

AEC ブループリントでは、ASEAN 経済共同体の 4 つの柱として、「単一の市場と生産基地」、「競争力ある経済地域」、「公正な経済発展」、「グローバル経済への統合」を挙げている。このうち、経済発展に重要だと考えられるモノの流れに係る「単一の市場と生産基地」、「競争力ある地域」の 2 つの柱を対象に各取り組みの現状を整理し、その課題を表 1 に示す。

「単一の市場と生産基地」では、関税の撤廃はほぼ完了しており大きな成果と言えるが、円滑な貿易を阻害する特定品目の輸入数量規制や域内各国で異なる通関手続きなど、非関税障壁については撤廃が進んでおらず撤廃に向けた取り組みが必要である。

「競争力ある地域」では、各種輸送・エネルギーのインフラ整備や、公正な企業競争を促進させるための法整備を主に取り扱っている。多額の資金を必要とする輸送・エネルギーのインフラ計画では整備の進捗に遅れが出ており、整備の加速が必要である。

4. 各経済回廊における課題

AEC ブループリントにおける「単一の市場と生産基地」と「競争力ある地域」に関する課題をもとに、各経済回廊

における課題を整理する。

・南北経済回廊

国境におけるボトルネック解消のためにダウエー深海港の整備やミャンマーにおける道路幅の拡張工事が必要である。

・東西経済回廊

ASEAN 高速道路網のミャンマー部分の道路幅の拡張とタイ-ベトナム間における貨物積替え義務の撤廃が必要である。

・南部経済回廊

タイ-カンボジア間の国道 4 号線のカンボジア側における道路の整備が必要である。

表 1 AEC における分野ごとの取り組みと課題

目標	取り組み	取り組みにおける課題
単一の市場と生産基地	非関税障壁の撤廃	円滑な貿易を阻害する、特定品目の輸入数量規制、輸入品の原産地証明の書式の統一等の非関税障壁の撤廃に向けた具体的な行動を策定する必要がある
	アセアン・シングル・ウィンドウ (ASW) 導入	各国における貿易手続きの窓口を一本化し、貿易手続きを簡素化するナショナル・シングル・ウィンドウ (NSW) を全ての国で導入する必要がある
	越境輸送円滑化	越境交通を円滑化させるための許可車両・事業者の越境輸送の許可等の協定を全ての加盟国で締結する必要がある
	サービスの自由な移動	サービス貿易の自由化のために、全ての業種において 70%以上の外資出資を容認することや、加盟各国が ASEAN 域内企業からの出資を段階的に自由化する措置等を実行する必要がある
競争力ある経済地域	道路インフラ整備	ASEAN ハイウェイネットワーク (AHN) の道路幅拡張等を含んだクラス 1への格上げ (2020 年以降に繰り延べされている)
	港湾インフラ整備	コンテナ船に比べて荷役時間の短縮や港湾設備の簡素化を可能にする RoRo 船ネットワーク整備に向けた調査を実施する必要がある
	鉄道インフラ整備	シンガポール-昆明鉄道 SKRL (東回りを完成させる必要がある (2020 年以降に繰り延べされている))
	エネルギー供給インフラ整備	ASEAN ガスパイプライン (TAGP)、ASEAN 電力網 (APG) の残りの部分を完成させる必要がある
	競争・消費者保護政策	競争法は残り 2 か国で、消費者保護法は残り 1 か国で策定する必要がある
	知的財産保護政策	特許協力条約は残り 2 か国、マドリッド議定書には残り 6 か国が加盟する必要がある

5. 結論

ASEAN 経済共同体は 2015 年末に発足したがその作業工程には遅れが出ていることが分かった。したがって、2015 年 11 月にハイレベルタスクフォース (HLTF-EI) によって ASEAN 首脳会議に提出され採択された 2016 年から 2025 年までの工程表である AEC ブループリント 2025 に沿って、取り組みを加速させる必要があることが分かった。

参考文献

(1) 外務省: ASEAN 共同体の設立に向けて-わかる! 国際情勢 vol. 133

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/to pics/vol133/index.html>

キーワード: ASEAN 経済共同 (AEC)、南北経済回廊、東西経済回廊、南部経済回廊